

## がんばれ香港！コロナ禍における香港日本人商工会議所の取り組み

香港日本人商工会議所 事務局長 柳生 政一

日本の皆様における「香港に対する見方の変化」を心配しています。2019年の逃亡犯条例改正に対する抗議活動と2020年の国家安全維持法の報道を通じて、ビジネス活動においても自由度が失われ、「法の支配」が終了したような印象が蔓延していないでしょうか？

ジェットロは、上述について発信しています。【ジェットロのホームページ→海外ビジネス情報→地域・分析レポート】に「香港拠点の位置づけに冷静な経営判断を」と題して掲載されています。当商工会議所も誤解を解く発信に注力しています。

次の課題は、コロナ感染対策。香港政府は常にタイム

リーに対策を強力に実施しています。例えば、感染者が出ると居住ビルの抜き打ち封鎖を行い、全住民に一晩でPCR検査を実施し、即日感染者が他にいるかあぶり出しています。3月31日時点では、合計11,468症例中、1名が疑い、11,095名は退院済み、205名死亡。3月17日から30日の過去14日間に感染者数は、132症例の内、外国からの輸入症例を除き香港域内では59症例、内感染源不明は17症例。

過去14日間の感染者数と感染源不明症例数が限りなくゼロになるか毎日見守っています。経済の生命線である広東省との隔離無しの入国制限緩和には、最低でも14日間で感染者数10名以内が必要なようです。

香港政府は、中国製のシノバックを750万回分、ドイツ製のビオンテックを750万回分、アストラゼネカも750万回分を手配済みです。750万人の香港市民は3種類から選択ができます。医療従事者など優先接種対象グループのみならず30歳以上の市民はワクチン接種センターや開業クリニックで接種が3月中旬から可能になりました。私自身も3月に1回目の接種を完了し、接種証明書を受領！申し込みはインターネットで身分証の番号、携帯電話番号、希望日時を入力し終了。後で確認のメッセージが携帯電話に届きます。接種時には、確認のメッセージと身分証を見せるだけでとても簡単。

当商工会議所は、公立病院のコロナとの戦いには敬服してきました。理事会で、ささやかなサプライズを医院管理局が指定する病院に届ける事を決定しました。日本製のみかんジュースや香港日本人倶楽部特製餅のおかき！



300箱の米菓子を受け取った北ランタオ病院から謝意と共にこの写真が送られてきました

2021年5月発行（禁無断転載）

### 目次

|                                   |   |                               |    |
|-----------------------------------|---|-------------------------------|----|
| がんばれ香港！コロナ禍における香港日本人商工会議所の取り組み    | 1 | 中 京：異常事態コロナ禍（新冠肺炎）～雑感         | 10 |
| 「香港日本人学校OBOG再交流の広場」（オンライン座談会）第3回  | 2 | 九 州：変わらない香港の重要性～3年間の駐在を振り返って～ | 11 |
| 私と香港ビジネス～6年間の香港駐在                 | 4 | 山 形：山形日本香港協会会員紹介              | 12 |
| 私の香港遍歴                            | 5 | 北海道：故安齋副会長を偲んで                |    |
| 香港貿易発展局新任日本首席代表挨拶                 | 6 | 理事会・総会開催                      | 13 |
| 連合会・各協会便り                         |   | 宮 城：学生部発足から1年 オンライン交流会好評継続中   |    |
| 全 国：香港春節ビジネスセミナー2021と第20回日本香港協会総会 |   | 「香港春節ビジネスセミナー2021」に参加         | 14 |
| 開催報告                              | 7 | 沖 縄：香港市場へのアプローチ               | 15 |
| 東 京：第16期CMMS「華人経営研究講座」は今年10月開講です  |   | 広 島：「香港食品バイヤーオンライン商談会」の開催     | 16 |
| 広東語教室夏季短期クラス登場                    | 8 | 新 潟：新潟日本香港協会の活動について           | 17 |
| 関 西：2021年度総会開催、香港愛                | 9 | 高 知：「まき婆のタレ」の開発秘話             | 18 |

## 「香港日本人学校OBOG再交流の広場」(オンライン座談会) 第3回

ゲスト：加藤忠寛さん、塩田智夫さん、日野岳(翁)紀子さん、平井城作さん、八木(藤掛)恵美子さん

司会：伊東正裕(NPO法人日本香港協会 広報委員)

構成：平野純一(NPO法人日本香港協会 広報委員)

撮影：ジャッキー鶴丸(NPO法人日本香港協会 広報委員)



(上段左より)  
加藤さん、塩田さん、  
日野岳さん  
(中段左より)  
平井さん、八木さん  
(下段左より)  
伊東、平野

香港日本人学校校章

**伊東** 今回は、1964～65年生まれで、70年代後半に香港日本人学校に通った面々にお集まりいただきました。先ず、当時の体験、とりわけ日本と文化や常識が違うことで戸惑ったことなどについてお聞かせください。

**加藤** フラットにはターバンを巻いたインド人のウォッチマンが、家にはアマさんがいてという環境は香港ならではだったと思います。当時はまだ反日感情があり、やはり香港人は日本人に対して複雑な感情を抱いていると感じていました。

**塩田** 私はリトルリーグに入って野球をやっていましたが、チームには欧米人も香港人もいて、家族ぐるみで親交を深められたのは貴重な体験でした。平井君とは一緒に代表チームに選ばれて、日本や韓国の代表チームとも対戦しました。香港のために頑張ろうという意気込みで試合に臨んだのを覚えています。

**日野岳** 貧富の差にはびっくりしました。超豪邸に住んでいる富豪がいる一方で、水上生活者もいましたから。ランニング姿で歩いている人や物乞いも街で見かけました。日本人学校では英語の授業が大変でした。私は小学5年生の2学期から転入したのですが、英語がまったくできず補修を受けていました。英国人のマーシャル先生が怖かったことを覚えています。

**平井** 私は香港生まれなので、日本との違いを感じることはなかったのですが、逆に日本語で苦労しました。小学1年で入った時はまったくできなくて、3年生になって何とか普通に話せるようになりました。2年生担任の渡辺先生が、家で個人的に日本語を教えてくれたおかげだと感謝しています。

**八木** 私は小学5年生の時にマレーシアのパナンから香

港に移りました。パナンは田舎だったので、「すごい都会に来た」と感じたものです。パナンではYWCAの英語学校に通っていましたが、香港日本人学校に転入すると「日本人がいっぱいいる」とまたびっくりでした。

—実際の香港の生活はどうでしたか。

**八木** 湿度がめちゃくちゃ高かったですね。壁が濡れて、アマさんがいつも拭いていたのを思い出します。夏は台風が多かったですが、シグナルが出ると学校が休みになるのがうれしかったです(笑)。

**加藤** 香港の人の声の大きいですからでしょうか、街全体が騒々しかったですね。当時は子供だけでタクシーに乗って、あちこち遊びに行ったものです。それだけ平和だったので、なにしろ子供が白タクの運転手と料金交渉までやっていましたからね。

—香港はグルメ天国で知られていますが、食に関する皆さんの思い出をお聞かせください。

**加藤** 鹿鳴春は、子供の頃も、その後1996年から仕事で香港に駐在した時も変わらないおいしさで、最も好きなレストランの1つです。あとは、屋台のカレー団子でしょうか。今私は北京在住なのですが、レトルトのものを今でも食べています。

**日野岳** 私はだんぜん飲茶ですね。点心類は全メニュー好きでした。ワゴンで運んできてくれるのがうれしくて。

**八木** わかるわかる～。自分の目で見て選べるのがよかったですよね。

**塩田** 日本には本場香港の味を出す飲茶が少ないんですよね。最近ちょっと高級ですが、有楽町のヤウメイという店に行きました。

**八木** アバディーンの水上市レストランは、観光客向けに出すメニューと現地人向けに出すメニューが違って、香港人と一緒に行けば、おいしいものが食べられました。あと香港で驚いたのは、ほかでは見たこともない大きなシャコですね。

**日野岳** 私はフーバーシアターの中にあつたしゃぶしゃぶ屋さんをよく覚えています。店名が思い出せないのですが、金網の杓で海鮮をすくって食べるお店で、とてもおいしかったです。

—皆さんにとっての香港はどのような場所でしょうか。

**八木** 私は「リトルワールド」だと思っています。香港には世界中の人が集まってくるし、世界各国のレストランがあります。当時は普通に英語を話す人が多かったですよ。その後、私は仕事で上海に駐在しましたが、英語を話す人はほとんどおらず、中国語を覚えないと仕事になりませんでした。

**平井** 香港は外国のいろいろな良いものを取り入れる懐の深さがあるように思います。それは子供のころから感じていました。アマさんも、今ではフィリピン人よりインドネシア人の方が多いんですよね。

**日野岳** 香港の人はパワフル、疲れ知らずで、しかもチャーミングだと思うんです。チャーミングとは、活発な一方で、実はシャイな一面もあって、そこがどことなく「かわいい」と思えるんですよ。

**塩田** 私たちがいたころはセントラルの「コンノートセンター」(註:現「ジャーディンハウス」)が一番高いビルでしたが、今は寧ろ低く見えるくらい、もっと高いビルがどんどん建ちましたよね。香港の高層ビル群の圧迫感は世界でも抜きん出ていると思うので、私はこれを世界遺産に申請してはと考えています。

**伊東** なるほど!香港人は思いついていないかもしれないので、逆に教えてあげたらいいかもしれません。最近、香港とマカオ、広東省9都市を「大湾区」と称して発展させる地域発展戦略が発表されましたね。

**加藤** 北京から見ていると「大湾区」のセンターは次第に深圳になりつつあるのかなという感じがします。ただ、香港の方が世界に開かれているので、ショーケース、インターフェイスの役割は今なお香港ということになるでしょうか。

**伊東** 香港も隣の深圳と組まないと、大きな成長が期待できなくなっているのが実態かもしれないですね。

**平井** 昔と比べると香港人のハングリーさがなくなってきた感じがします。昔は「1あったら10欲しい、10あったら100欲しい」というのが香港人でした。とにかく上昇志向が強かった。それだけ香港人も裕福になったということかもしれません。

**塩田** 香港人には親日家が多いですし、日本にとって香港は重要な貿易パートナーです。とりわけ、農林水産物・食品の輸出仕向先としては世界一です。今はコロナで人の往来が途切れていますので、早く交流が再開されればと願っています。

——ところで、皆さんは修学旅行では、中国本土へ行きまされたよね。

**八木** 広州に行きました。でも台湾籍の同級生2人が行けなくて、とても残念でした。

**加藤** あの時代は台湾籍の人は大陸に入れなかったんですね。そういう政治的な厳しい現実を、同級生一同衝撃的に受け止めていました。あと買い物も外国人専用の友誼商店でしかできない時代でした。

**塩田** 印象に残っているのは、広州のさまざまな訪問先で、我々は合唱を披露したのですが、それがやはり毛沢東を讃える歌だったんですよ。日本人学校の先生も当時の難しい政治状況を考えて、そういう歌を準備していたのだと思います。

**八木** 「我愛北京天安門」ですね。私、今でも歌えます(笑)。もう一曲は民謡の「草原情歌」でした。

——最後に、皆さんにとって香港時代の経験が人生に与えた影響についてお聞かせください。

**塩田** 小学校高学年から中学という人格形成の時期に、国際感覚あふれる特異な空間での体験を皆さんと共有できたからこそ、強い絆が生まれたんだと思います。私は今でも「青い海、白い波……」の日本人学校の校歌を時々口ずさむことがあります。2016年には、香港日本人学校の創立50周年記念式典がありましたが、参加した同級生とその家族30人が、現地にいる平井君が手配してくれたバスで懐かしい場所を巡りました。改めて平井君には感謝しています。

**加藤** 香港が一番多感な時期に過ごした場所で、私の人生の宝物の期間といえます。父親が転勤族で、日本には思い入れのある場所がなく、代わりに香港が一番ふるさと感が強いです。就職してからも一度駐在をしているのですが、不思議とあの喧騒がかえって落ち着くんです。

**日野岳** 私も香港生活は思春期の大切な思い出です。最初は不安でいっぱいでしたが、日本に帰る時は寂しくて飛行機の中ではずっと泣いていました。日本人学校は、ほぼ全員が転校生で構成されているので、来る人をみんなが優しく受け入れてくれたことが絆を強めたように思います。

**八木** 私も香港の同級生の皆さんは本当に心に残る存在です。今はコロナで香港に行けませんが、早くまた行きたいなと思います。平井君が香港のおいしそうな料理ばかりSNSにアップしていますので、もう待ちきれません!

**平井** 香港日本人学校でつながった同級生、そして他の学年も含めた同窓生は特別な存在で、今でもこのようにお付き合いできることを幸せに思います。私は今後も香港に住み続けますので、母校のために何かできることがあれば、ぜひお手伝いしたいと思っています。

**伊東** 本日はお忙しい中、ありがとうございます。いずれ香港でみなさんに再会できればと思います。その時は平井さん、お世話になりますね。



小学6年生宿泊学習集合写真  
(1976年9月4日烏溪沙(ウーカイシャ)にて)

## 私と香港ビジネス～6年間の香港駐在

NPO 法人日本香港協会 理事 中江 隆比古

私は、80年に日立製作所に入社以来、30年余り主としてホームエレクトロニクス事業部門に在籍、米国14年、上海2年弱の駐在を含む海外市場担当を経て、2013年に香港へ赴任した。門外のビジネス分野、香港拠点の職務等、一からの出直しと本社副社長が中国アジア地区総裁として香港に拠点を移した時期とが重なり、混乱を極めたスタートとなった。また、全社的な構造改革の最中で、新方針である社会イノベーションビジネスを開拓・推進する事が最優先課題だった。当時は家電、昇降機、IT等主要グループ13社が香港・広東省を中心にビジネス基盤を持っていたが、新たな課題に取り組むには規模が小さく、リソースも不足している香港現地法人としては、グループ連携が必須であった。地場コミュニティを熟知した香港拠点ナショナルスタッフの推進力とネットワークを活用し、徐々に活動を広げていったが、そこでお世話になったパートナーとの取組みについて簡単に紹介したい。

インベスト香港のチャールズ・ウン副署長にはいつも協力的でグループ会社共々ご支援いただいた。HKSTP（香港サイエンス&テクノロジーパーク）との橋渡し、新規ビジネスに関わる業界団体の紹介などをはじめ、香港の高齢化対策の観点から、訪日時にはグループ会社経営の介護施設ご視察をアレンジさせていただいた。その後、香港政府主催Gerontech（養老科学技術展）の案内を頂き、グループ会社での共同出展を通じて、業界関係者への提案に繋げることができた。

香港政府創新及科技局傘下のHKSTPは、2001年に新界地区に創設され、スタートアップを含むR&D関連企業800社超、1万3千人が入居する研究開発拠点である。前CEOアラン・マー氏、現CEOアルバート・ウォン氏よりご支援いただき、2014年弊社香港現地法人の50周

年記念式典では中央研究所幹部2名が「データの見えざる手」、「ロボティクス」をテーマに講演し、HKSTPとの交流のほか、マー氏には祝宴での主賓挨拶をお願いした。これを契機に、HKSTP主催「APACイノベーションサミット」にプラチナスponsor企業として参画、日中のR&D、事業部門と連携し、ロボット、IoT、高機能素材、スマート医療等各回テーマでの技術展示、講演を行った。16年には弊社が主催する「香港ソーシャル・イノベーション・フォーラム」をHKSTPで開催、松田大使にご挨拶をいただいた。

フォーラムでは弊社が納入、運営する柏の葉スマートシティ内のエネルギー管理システムなどを題材に、その部門長がスマートシティについて基調講演を行った。それがご縁となり、香港スマートシティコンソーシアムに入会、同年末の訪日代表団を受入れ、柏の葉、ビルシステムR&Dを視察、弊社会長含む幹部交流、提案活動へと発展した。

18年にはグループ7社がHKSTPにオフィス移転し、イノベーションセンター（データ、デジタルソリューションの協創プラットフォーム）を開設、HKSTP内データスタジオ及び入居スタートアップ、地場企業、公共部門との交流を開始した。このような活動の甲斐もあってか、同年11月に東京で開催された香港貿易発展局主催「Think Global, Think Hong Kong 国際化へのパートナー：香港」シンポジウムにおける講演依頼がHKSTPウォンCEOからあり、お受けすることとなった。ウォン氏が主催する「スマートシティのABCD：AI・ブロックチェーン・クラウド・データ」分科会で、原内閣府参与、ラオ・センスタイル副社長、ラム政府最高情報責任者による講演の後、小職がHKSTPとの取組みを紹介し、協創推進の覚書をHKSTPと締結した。

ウォン氏は米国GE社で北米勤務、上海でユニット長の経歴を持ち、同じ電機業界・勤務地での話題、日本酒・ゴルフを香港でもご一緒いただいたが、同シンポジウムの祝宴「香港ディナー」の後、秋葉原の居酒屋でチャイ会長含むHKSTPメンバーとの慰労会も思い出深く、その後もHKSTPとの連携は継続している。

駐在後半には、インベスト香港ウン氏、HKSTPウォン氏と有力病院陽子線ガン治療施設プロジェクトのパートナーで香港スマートシティコンソーシアム幹部ロザナ・ウォン女史の3人と定期的に交流をさせていただいた。所謂マインドセットが高く、馬力があり社交的な3人とお付き合いはいつも刺激的で学ぶ事が多く、楽しい会合であった。残念ながら本題の社会イノベーションビジネスの推進は道半ばであったが、皆様からのご支援のお陰もあり、6年間の香港駐在を無事に終えることができ、2019年に帰任した。コロナで往来も不自由な中ではあるが、改めて香港の皆様へ感謝を申し上げたい。



2016年「香港ソーシャル・イノベーション・フォーラム」開幕式。松田大使（前列中央）、ウォンCEO（同左から3人目）、ウン副署長（同右から2人目）、筆者（同右から3人目）

## 私の香港遍歴

NPO 法人日本香港協会 広報委員 塚本 勝弘

私は生涯3回、香港に滞在した。初回（1964～68）はDIC（旧称大日本インキ化学）香港駐在員として生まれて初めての海外生活だった。とにかく見るもの聞くこと珍しさには事欠かなかった。実務面では前任者の敷設した路線の踏襲に終わり、いささか忸怩たる思いは免れない。

二度目（1978～83）は、前回からちょうど10年を経過しており、事業所・従業員などの規模は昔日の比ではなく独立現地法人としての基盤は確立していた。そうした形式上の変化はさておき、実質的に最大の注目に値するのは営業品目の中に占める富士フィルム製品の存在であった。こと印刷業では、消耗品としては紙・版材・インキが三大要素である。そのなかでも紙は印刷以外にも用途は広く、対象から除外すると、残る後二者での業績拡大が課題とならざるを得ない。全くの更地に筆者の手で種を播き後任者も熱心に然るべき時間と手間をかけて開花・結実させた結果である。これがDIC香港最盛期を支える基盤となった。結果としてかねて念願の総合年商1億香港ドル達成は正に望外の喜びであった。蓄積した潤沢な留保利益を財源に、新開発の尖砂咀東部に最新商業ビルのワンフロアを購入した。長年の借家住まいから自前オフィス・オーナーへの格上げを置き土産として、無事任務を完了の上帰国できたのは、このうえない幸せであった。同年はDIC香港の創業25周年に当たり、歴代の責任者合計6名（筆者は第7代目）全員および社長夫妻以下数名の経営幹部を招待して大祝宴を開催した栄誉も記憶から消し難い。

最終回（2001～03）は定年退職後である。余暇活用の一環として、韓国語の初歩に挑戦した。韓国語単語の基底には漢字が潜んでいる。そこで、ある漢字に対する発音が同一字に対する中国語南方方言である広東語のそれに近似していると気づいた。そこで、非才ながら一つの仮説を立ててみた。中華文明の発祥地である中原で発生した古代中国語が、その文明の周辺地域への拡散にともなって同心円的に漸次拡大していった。朝鮮半島も華南地区もその同心円上の一点に位置する。後日知ったことだが、民俗学者の柳田国男が同様な言語学的現象を体系的に整理して「方言周囲論」として著述しており、筆者独自の発想ではないことが判明した。

ある時母校を訪問した際、売店に海外留学の案内小冊子が並んでいるのが目に留まった。その中に香港中文大学も含まれていた。入学すれば柳田国男的仮説を韓国語と広東語の二種言語を対象に実証する機会が与えられるかも知れない。一方、過去二度の香港生活は会社業務が目的なのでその行動範囲も限られており、地政学的存在としての香港を熟知しているとは言えない。時間は有り余

るほどあるから、これら二つの目的を果たすため再度の滞在にも意義がありそうだ。筆者の境遇からは学部への正式入学には難点があるが、付属施設「中国語文研修所」なら毎年3回の入学機会があることが判明した。個人的趣味の充足と長期滞在の口実および手掛かりが得られれば良しとし入学することとした。2001年8月のことである。

それ以後2年間、広東語の学習に勤しんだ。月曜から金曜まで午前中は授業があるが、問題は週末土日の身の置き方である。そこで、ふと考えた。今回来港にはもう一つ目的があった筈だ。香港の地政学的解明だ。幸い、香港はバス・電車などの公共交通機関がよく発達しており、全域を縦横に網羅している。これを基本的武器として自分自身の両脚を加えての挑戦を決断した。その都度思い付き次第の単独行である。大学寮の近傍であったり、無人の山野であったり、高低差も様々な道と土地を歩き続けた。毎回『香港特区全境図』上の該当区間に赤線で印を付けた。今でも時折引っぱり出して眺めるが、我ながらこれに匹敵する資料の存在は考ええず、ギネスブック級の傑作に値すると自画自賛している。実際の走行距離として把握するため、自分の全走行実績を試算してみた。回数の算出は、1年365日香港に滞在していた訳ではなく、3か月の学期が3回、週末数は $52 \times 3/4 = 39$ 。各週末2回、簡略化して年80回とし、総計で $80 \times 2$ 年間 = 160回となる。筆者の歩行速度は普通に足を進めれば平均25キロ/日として、 $160 \times 25 = 4,000$ キロとなる。

その後も、業務や私用などで毎年最低1回は香港を訪問している。その中で、特筆すべきは毎年年末に開催される香港フォーラムに、連続10年間（2005～15）参加したことである。時々刻々変化を続ける香港の実情を自分の眼で確かめる絶好の機会であった。



週末香港踏破の記録

## 香港貿易發展局新任日本首席代表挨拶

全国各地の日本香港協会会員のみなさま、こんにちは。本年2月15日付で香港貿易發展局日本首席代表に着任しましたベンジャミン・ヤウ（游紹斌）と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

私はこれまで、香港貿易發展局の東京事務所長と大阪事務所長を歴任し、約10年ぶりに日本に戻って参りました。香港貿易發展局の日本における代表として、また日



本香港協会全国連合会の事務局長として、各地の皆さまと再会し、協力して事業に当たれることをとても楽しみにしております。

さて、この10年間で、日本香港協会は大きな発展を遂げていることを知り、大変嬉しく思います。日本香港協会は現在北海道から沖縄まで11協会、1,100名以上の会員がいると聞いておりますが、全世界35ヶ国／地域・46協会・11,000名を有する香港ビジネス協会世界連盟の中でもひととき大きな存在感を放っています。古くからの友人である全国各地の方々とお会いするだけでなく、今後初めてお会いする方々との間で、新たな友情を育むことができると考えております。

2020年、世界は新型コロナウイルスによる大きな打撃を経験しました。それは、世界の公衆衛生を脅かすだけでなく、経済活動の停滞や混乱を引き起こしました。香港貿易發展局と日本香港協会は、変化する環境に迅速に対応し、所謂「ニューノーマル」として、香港フォーラム、アジアフォーラムや全国事務局長会議など各種イベントをオンライン形式で代替しました。しかし、我々は誰もが、できるだけ早く、互いに面会し握手をしたいと思っている筈です。一日も早くパンデミックが収束することを心から願ってやみません。

さて、多くの香港人同様、私自身日本が誇る卓越した製品、伝統的な文化、優れたサービス、そして心地よい四季をこよなく愛しています。1993年に初めて日本を訪れて以降、そういった日本の良さを細部に至るまで体感し、楽しみ、そして驚かされました。さらには、これまでに逢ったすべての日本人の方々に共通していることですが、その親しみやすさと「おもてなし精神」にも

深く感銘を受けております。幸いなことに、こうして再び日本に戻れることになりましたので、今まで日本の友人から受けた親切心に対し、恩返しをしなければならぬと考えています。

日本首席代表としましては、任期中に、より多くの日本香港協会のメンバーと日本の企業が、香港を介して海外ビジネスを成功させることができるよう、支援をして参る所存です。香港貿易發展局では、パンデミック対策も踏まえ、いくつかの新たなプロモーションの方向性について策定をしています。第一に、将来のビジネスおよび貿易活動がインターネットと人工知能（AI）によって受ける影響に対応すること、第二に、更なる危機の到来に備えるためのバイオテクノロジーとヘルスケア産業に重点を置くことです。最後に、我々は香港の経済界と香港に拠点を置く海外企業に対して、広域経済圏「広東・香港・マカオ大湾区（グレーターベイエリア）」構想における新たな事業機会を活かすべく、様々な支援をして参ります。今後数年間に亘り、全国の日本香港協会の皆様と協力して、これらの新しい可能性について、より多くの方々にご理解いただければ、私としましても望外の喜びです。

最後になりますが、2021年は1971年に香港貿易發展局の東京事務所が設立されてちょうど50周年の節目の年に当たります。是非皆様とともに、お祝いができましたらと考えておりますので、引き続きご支援を賜れますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

### ベンジャミン・ヤウ（游紹斌）首席代表の略歴

#### 【学歴】

- 1996-1999年 英国ケンブリッジ大学 工学部 卒業
- 1999-2000年 英国ケンブリッジ大学 大学院 土木工学修士課程 修了
- 2000年 英国ケンブリッジ大学 Overseas Society フェロウ
- 2000-2001年 早稲田大学 国際部 日本経済文化研究課程 修了

#### 【職歴】

- 2001年 香港貿易發展局 入局
- 2001年 国際協力部 中国・東アジア課
- 2004年 製造業促進部 アシスタントマネージャー（中東地域担当）
- 2007年4月 東京事務所長  
NPO法人日本香港協会（東京） 理事
- 2008年11月 大阪事務所長  
関西日本香港協会 理事  
中京日本香港協会 理事
- 2011年10月 国際協力部 新興市場課長
- 2017年4月 韓国代表（ソウル駐在）  
香港韓国ビジネス協会 名誉顧問
- 2021年2月 日本首席代表 就任  
日本香港協会全国連合会 事務局長



## NPO法人日本香港協会 副会長・ビジネス交流委員長 野島 威

## 香港春節ビジネスセミナー2021と 第20回日本香港協会総会 開催報告

去る3月5日、ホテル椿山荘にて、香港貿易発展局・NPO法人日本香港協会主催による香港春節セミナーがハイブリッド形式にて開催されました。全国各地の日本香港協会メンバーに加え、東京・大阪商工会議所関連の方々、香港からも香港日本人商工会議所と香港和僑会の会員の面々など、オンライン・オフライン合計で総勢300名を超える参加者を集め、昨今の香港動向に対する関心度の高さを窺わせました。

開会挨拶には、香港貿易発展局新任のベンジャミン・ヤウ日本首席代表が登壇、流暢な日本語で香港と日本がお互いに大切なパートナーであること、今回のセミナーの主旨について説明され、更なる両地間の関係発展に期待していることが述べられました。

続く来賓挨拶では、やはり新任の香港経済貿易代表部ジョイス・ホー首席代表が登壇、香港と日本の特別な関係、香港の現状と大湾区やアジア各国へのゲートウェイとしての役割について説明され、パンデミック関連の経済支援措置など将来の展望についてもご紹介いただきました。

第一部の基調講演では、(株)リコーの西宮常務執行役員生産本部長をお招きし、「リコーの大湾区におけるものづくり戦略」と題して、お話しいただきました。同社の大湾区への進出は30年前に遡りますが、2019年に東莞に設立された新工場は2020年7月より生産を開始、「環境にやさしいものづくり」を実践したスマート工場として、中国当局から「緑色建築」に認定されているとのことでした。コロナの影響で日本からの技術支援者の派遣ができなかったものの、東莞の現地人材の優秀さに助けられ予定どおり立ち上がった本工場ですが、同社主力製品の生産を担う世界の中核工場に位置づけられているそうです。

第二部のパネルディスカッションでは、法政大学大学院の松田教授（当協会理事）がモデレーターとして登壇、香港を活用して大湾区・中国本土へ事業を展開している企業の代表として、ヤマトホールディングス(株)の梅津執行役員（当協会理事）、(株)シャトレーゼの中澤執行役員海外統括部長、(株)龍角散の藤井代表取締役社長をパネリストとしてお迎えし、活発な議論が行われました。創業100周年を迎えるヤマトホールディングスは、「運送」から「運創」へ大きく事業を再構築、とりわけコロナ禍において需要増が見込まれる日本の農林水産物を、地方都市からダイレクトに香港につなぐという将

来の展望についてご披露されました。亀屋万年堂の買収で話題のシャトレーゼは、2017年に香港へ初出店、既に店舗数は45店を数え、近々60店舗まで拡大予定とのことでした。同社のコンセプトは「こだわりの商品をお手頃価格で提供する」こと、日本の1.5倍の価格でも香港人消費者の人気を博しており、既に深圳へのデリバリーを開始するなど大湾区への足掛かりも築いております。龍角散は、名物社長の藤井氏が巧みな話術で熱弁をふるい、会社設立の経緯から海外展開の歴史について詳しくご説明いただきました。同社は数年前から中国人インバウンド需要を取り込み、現在では越境ECを通じて中国本土向けの販売を伸ばすなど、その確実な経営手法や独特のCMに関するエピソードが印象的でした。

続いて香港貿易発展局東京事務所の伊東所長（当協会理事）より、電子商取引（EC）市場の動向と、香港貿易発展局が主催するECプラットフォームとバーチャル展示会の紹介と、日本からの団体・企業のオンライン活用の展開事例について説明がありました。

日本香港協会の佐藤会長からの閉会挨拶では、昨今日本のマスコミで取り上げられている香港のニュースはネガティブな一面ばかりが報道されているが、セミナー登壇者の講演内容から、香港経済が今なお健全に機能していることがご理解いただけたのではないかとコメントされました。また、協会としては、亜細亜大学後藤教授をお招きするビジネス懇話会や、10月からオンライン開講される「華人経営研究講座CMMS」の案内も含め、今後も日本・香港間の相互理解促進につながるイベントを開催していくと述べられました。

その後同一会場内で、NPO法人日本香港協会の第20回通常総会が執り行われました。前回に引き続きコロナ禍における開催となったため、最小限の理事・正会員による列席と定足数を満たす委任状を回収、議長に選任された佐藤会長による議事進行のもと、2020年度の事業報告・決算報告に続き2021年度の事業計画・予算計画と理事の補充案が無事承認されました。



春節セミナー登壇者集合写真



## NPO法人日本香港協会 特別顧問 藤澤 慶彦

### 第16期CMMS「華人経営研究講座」は今年10月開講です

今年は来る10月から開講いたしますので、各地の香港協会の会員の皆さまには早めにお申込みいただきますようお願い申し上げます。

- 開催期間：10月7日から2022年3月17日まで週1回
- 時間：7pm - 9pm (毎週木曜日)
- 形式：全講座オンライン (自宅または勤務先で受講可)
- 内容：理論編11講座、実践編10講座 全21講座
- 受講料：一般5万円、会員4万円、分割受講可 (3千円/講座、3講座以上)
- ※理論編または実践編のみの受講も歓迎します (一般3万円、会員2万5千円)
- 募集人員：50人 (先着順)

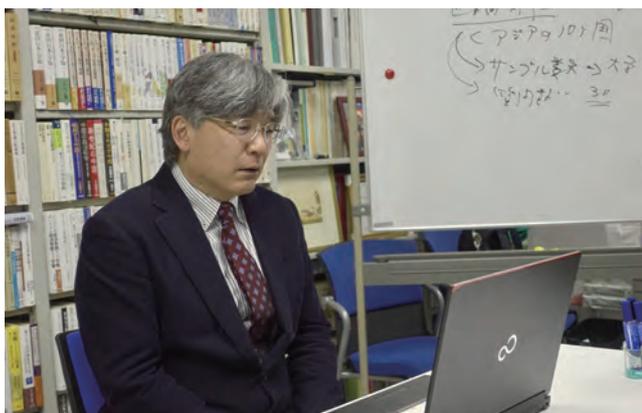
講義概要は次の通りです。

**理論編**：「国情」「中国思想」「戦術」「華人ネットワーク」の4つの分野から解説します。教授陣には新たに華人論の北九州市立大学の王効平教授、三国志の早稲田大学の

渡邊義浩教授が加わり、中国と中国人を歴史・社会・文化・政治の各方面から分析する当代一流の講師が11人揃いました。

**実践編**：理論編で得た知識を実践で生かせる10講座です。「中国経済分析」「中国市場攻略」「中国企業台頭」そして「香港コネクション」の4つの分野で活躍中の経済界中心の10人の講師の経験談を含めた実践的講義です。半導体を中心とする米中貿易摩擦で揺れるBATHなどのIT企業の現状と課題も分析します。世界第2の経済大国に躍進して国内市場の充実と海外市場に影響を強める中国、デジタル通貨や一帯一路を推進する中国、そしてEVの自動運転を始めとするAI化に邁進する中国、これと競合・協調する日本企業は得意とする技術や渋沢栄一の「論語と算盤」だけで果たして闘えるのか、CMMSはその答えを提供いたします。

詳しくは〈受講申込書〉を含めて日本香港協会のHPの「チャイニーズ・マネジメント&マーケティングスクール」に掲載中です。奮ってご応募ください。



全講座オンライン 東京大学園田教授 (左) 二松学舎大学牧角教授 (右)



## NPO法人日本香港協会 文化交流委員会

### 広東語教室夏季短期クラス登場

これまでの広東語教室は年に2回 (春秋) の募集で期間は6か月間のみだったが、2021年は7月から3か月間の夏季短期クラスが2つ登場する。1つはリモートワークを機会に短期で集中して学びたい人向け。週1回の授業で、早く上達していきたい人にはおすすだ。

もう1つは隔週の授業で、LINEアプリを使う。スマホ1つで気軽にゆっくり学んでいきたい人向けだ。ともに当教室の人気女性講師が担当し、難しいと言われる広東語の発音・声調をみっちり学ぶ入門1Aのレベルからスタートする。コロナ禍で全てのクラスがオンライン受講となったが、通学せずに受講ができると、国内はもとより海外からも受講する人が増えてきた。

また全国各地の日本香港協会や香港和僑会の会員は受講料がお得になる特典を用意している。全くの初心者から、もう一度学び直して話せるようになりたい人まで、さまざまな問合せが寄せられるが、無料のオンライン相談会で丁寧に対応している。短期クラスについて詳しく知りたい人は当協会広東語ホームページからお問合せを。

お問合せはホームページへ！  
初心者向け!楽しくレッスン!  
スマホ1つで  
オンラインレッスン  
人気講師コニー先生クラス  
**ゆっくり学ぶ  
金曜隔週  
入門クラス  
7月開講**  
金曜夜19:30~

お問合せはホームページへ!  
声調・発音をみっちり  
オンラインレッスン  
人気講師ケリー先生クラス  
**夏季  
短期集中  
入門クラス  
7月開講**  
初心者向け!毎週月曜夜開講!



## 関西日本香港協会 会長 戒田 真幸

### 2021年度総会開催、香港愛

大阪のコロナ感染者数が1日100名を切った状況が続く、緊急事態宣言が解除される直前の2月25日に2021年度総会を開催しました。毎年ヒルトン大阪で総会と春節セミナー・パーティーを盛大に実施していますが、今年はコロナ緊急事態宣言が出されていたので、春節イベントを実施出来ず、大変残念でした。

今年の総会は、香港貿易発展局の大阪事務所がある大阪国際ビルの16階会議室で開催しました。窓から大阪の街が一望できる明るい素敵なお部屋に例年と同人数の23名（理事10名、会員13名）が参加し、2021年度の役員人事、2020年度の会計報告、2021年度の予算案、2020年度の事業報告、2021年度の事業計画が承認されました。



総会の会場風景

総会の前に30分間、コーヒーを飲みながら交流会を実施しました。久しぶりに会えた親しい皆さんが温かい雰囲気楽しく交流され、参加者の皆さんに喜んでいました。香港から参加していただいた楊さちこさん（2017年春節セミナー講師、中医博士、美容と健康の研究者）が女性会員の皆さんと親しく交流され、会場の窓から見えた青空に「龍」の姿が見えたと言われました。風水の占いもされる楊さんが言われたことですので、参加者の皆さんの「強運」を祈りました。

総会の冒頭に、香港貿易発展局大阪事務所長のサミュエル・チェンさんから、香港への転勤挨拶があり、リッキー・フォンさんの大阪事務所長昇格と大阪事務所長を経験したベンジャミン・ヤウさんが日本首席代表として東京に赴任された人事が発表されました。今回、栄転・栄進された皆さんは、大阪駐在として西日本と香港の交流促進に尽力され、存在感のある立派な仕事をされた賜物で、大変喜ばしく、協会も一緒に仲良く存在感のある活動をしたいと思いました。

総会で承認された役員人事では、神戸を代表する不動産会社である(株)プランナーズ・インターナショナルの前田烈社長が新しく理事に就任され、17名の役員で今年の協会を運営することになりました。会計報告では、昨

年度はコロナ問題発生により計画した事業を実施出来ませんでしたでしたが、会員の退会がほとんど無く、経費支出が減少して、協会の手許資金が大幅に増加して財務基盤が強化されたとの報告がなされました。今年の予算案は、引き続き財務基盤を改善する予算案が承認されました。昨年は、ヒルトン大阪で盛大に開催した春節イベント以外の事業をほとんど実施出来ませんでしたでしたが、香港貿易発展局が主催してくれたオンライン香港フォーラム（参加者75名）とオンライン香港ビジネスセミナー（参加者172名）に関西で沢山参加してくれました。協会独自の事業を実施出来なかったのが、有難かったです。今年も厳しい状況が続きそうですが、会員との交流イベントや香港セミナー、香港フォーラムへの参加などを実施出来ることを願っています。全ての議案が承認された後、田中義次副会長の閉会挨拶で総会を終了しました。

総会を無事終えて実感したことは、日本香港協会は会員の皆さんの「香港愛」に支えられていることに感謝したいとの思いでした。中国政府の激しい民主派弾圧で香港の「一国二制度」が揺らぎ、「香港はこれで終わりですね」とか、「中国への返還以前の香港が好きです」と言われる方がおられます。「港人治港」から「中国の愛国者による治港」への転換を嫌って国外へ移住する香港人も増えてくるでしょう。然しながら、騒動前には、年間6,000万人以上（内、中国から4,000万人以上）の域外からの来訪者が来る香港は一大消費市場です。香港人は香港が一番金儲けできる場所であることをよく知っています。政治が安定すれば、中国政府が描いている中国南部の大湾区経済圏構想実現のためには、深圳と共に更に重要視されている香港は今後もしたたかに発展して行くでしょう。香港人がアジアで一番好きな国民は日本人で経済関係も密です。香港は人材が豊富で、香港の人達は人付き合いも上手です。我々が「香港愛」を持って親しく付き合い合えば、彼らも「日本愛」で応えてくれて、将来、更に良い関係が築かれると思っています。



コーヒーを飲みながらの楽しい交流会



中京日本香港協会 事務局長 佐藤 亮一

## 異常事態コロナ禍（新冠肺炎）～雑感

現代の経験している最も恐ろしい新型コロナウイルス感染症の現状は、日々テレビや新聞などの報道から知らされ、終息の判明しない環境に晒されている。当中京日本香港協会も年間6回の会議や総会などの開催を中止。地区の状況に関する連絡は書面、電話にて対応したが、経済活動の情報交換は十分とはいえない状態だ。

令和2年度末までの活動計画は実施実行してきた。年明けて令和3年度の活動予定に関して会員への連絡手段は上記にあげた以外にFAXも利用したが、一方通行の感は止むを得ない。昨年2月14日に「恭賀新年」の祝賀会を開催。会員、ゲストをお招きし、親睦を深めた。理事全員出席のもと「本年もよろしく」と年間計画を発表したが、令和3年度の計画は再考する必要があるようだ。特に年間スケジュールの中にあるセミナーや会員間の親睦会は、このコロナ禍では開催が難しい。

このようなコロナの異常事態は、香港滞在中に経験した雨傘運動や鳥インフルエンザのことが思い出させる。特に、鳥インフルエンザの感染予防のため宿泊先のホテルのエントランスや側溝などあらゆる場所での消毒液噴霧する作業は、政府の職員なのか民間団体関係者か定かではないが早朝4時～5時に行われた。滞在中はその早朝作業の音が目覚まし時計代わりになり早起きすることができた。その後鳥インフルエンザの騒ぎも無事終息したのは周知のとおりだ。

今回のコロナ禍は多数の国や地域をも巻き込む事態となって、例外なく香港への往来もままならない状態にある。また一方、香港の情勢も中国政府の「国家安全法」

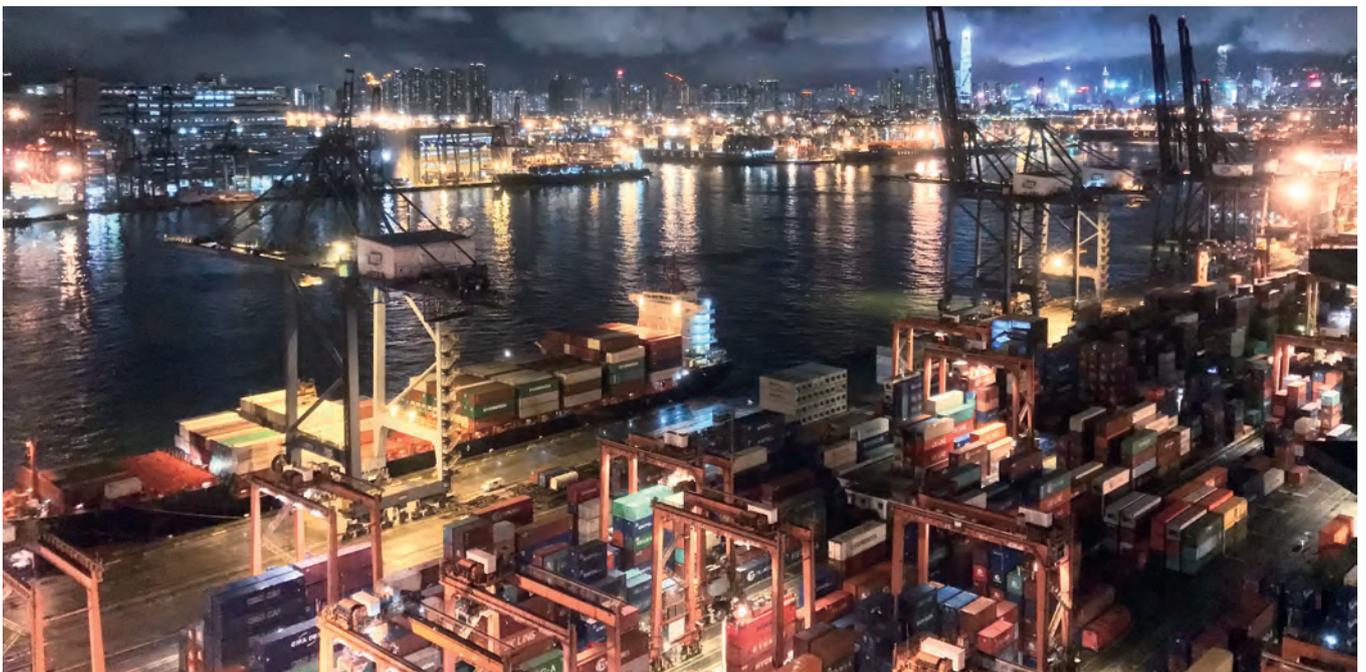
による香港内の諸問題も抱えており、地元新聞をみると制限付きとはいえ学生などの運動がいつ活発化されるか懸念材料も抱えているようだ。

名古屋をはじめ東海3県の経済活動でも自由港であるはずの香港への輸出入がかなり条件付きとなり、企業によって縮小されるケースも多くなっているようだ。そうした紙面報道をみるに我々の行動が「完全なる巣籠り」体制になってしまったことが懸念される。

香港の歴史に触れると、「香木の積出し港」にその名が由来する香港は1842年南京条約でイギリス領となり、当時人口7,400人。わが国同様、天然資源乏しく工業化を経済発展の軸として成長、1930年100万人突破。1936年啓徳空港が軍民共用として開港、1998年には香港国際空港がオープンと、小さな港町から、貿易・物流、観光、金融・サービスなどの基幹産業を有する国際都市として現在の地位確立に至っている。

我々も、香港貿易発展局を通じ、年末の総会には地元民や各世界の香港通とも親睦をはかり、さらに学生の交換留学など、より一層の中京地区と香港の様々な場面で交流が早期に実現できるように努力したい。

最後に、現在の中京地区への香港からの来訪者数は激減しておりウイルス自己防衛と共に考慮したい事態である。とともに訪日の割合を二桁台に増やしてゆく方策を考えたい。中部国際空港（セントレア）の国際線状況がコロナウイルスの影響で昨年4月以降全休、6月より徐々に再開するもアジア地区はマニラ、台北、ソウル、シンガポール4路線のみ。我々としては地元の代表的な産業の一つの自動車ビジネス関連の需要を見込んで香港便の運航が平常化することを願うばかりである。



葵青貨櫃碼頭（写真：JHKS事務局 野原南海子）



福岡県香港事務所 所長 山奇 智幸

## 変わらない香港の重要性 ～3年間の駐在を振り返って～

### 1. 激動の香港

2018年3月に香港へ赴任して一番驚いたことは、中国本土からの観光客の多さであった。年間5千万人を超える中国人観光客は、免税店やショッピングモールで貴金属や高級ブランドなどを購入し、香港ディズニーランドなどを訪れ、香港の街は活況を呈していた。また、中国政府が推進する「広東・香港・マカオ大湾区構想」により、広州・深圳・香港を1時間以内で結ぶ広深港高速鉄道や、香港と珠海市及びマカオを結ぶ港珠澳大橋が開通したことで、大湾区内のアクセスが飛躍的に向上し、巨大な経済圏が動き出そうとしている。しかし、2019年3月に、中国本土への逃亡犯罪人引渡しが可能となる「逃亡犯罪人条例」改正案を香港政府が立法会に提出したところ、民主派だけでなく、親政府派や財界も含む香港社会全体に懸念・不安が拡大し、大規模デモや激しい抗議活動が続いた。その結果、中国本土からの観光客が激減し、百貨店や飲食店の売上が大幅に減少するなど、経済活動に大きな影響が及んだ。さらに、2020年1月のコロナ禍以降は、中国本土を含む海外からの観光客が途絶えたことで、香港経済は深刻な打撃を受けた。また6月には、香港での反政府活動を取り締まる「国家安全維持法」が成立するなど、この数年は香港にとってまさに激動の時期であった。



免税店に並ぶ中国大陸からの観光客(2018年11月筆者撮影)

### 2. 3年間の駐在を振り返って

コロナ禍以前は、香港と福岡の間には毎日5便の直行便が就航しており、福岡も多くの香港人観光客で賑わっていた。コロナ禍以降は訪日旅行ができなくなったが、香港にはあまおうや八女茶などの福岡県産の食材が継続して数多く輸出されている。このため、当事務所では、日本への旅行再開を待ち望む香港人に向けて、現地飲食店やショッピングモールと連携して、福岡の食材を楽しみながら、福岡の観光やグルメスポットなどを紹介するイベントを積極的に開催してきた。



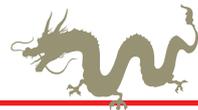
あまおうと八女抹茶を使ったティーセット(2021年2月筆者撮影)

また、福岡県では、2018年から2年連続で福岡県アジアビジネス訪問団を派遣し、県内企業と深圳企業のビジネスマッチングを実施したほか、広州市内で開催された観光イベントに出展したりするなど、コロナ禍以前は、華南地域における取り組みも積極的に推進してきた。2019年12月には、深圳航空が深圳～福岡便、厦門航空が福建省福州～福岡便の就航を発表しており(コロナ禍で就航時期未定)、今後、広州や深圳はじめ華南地域との交流もさらに活発になることを期待したい。

### 3. 変わらない香港の重要性

日本のメディアの一部では「香港は死んだ」といった言葉が使用され、ネガティブなイメージが先行しているが、実際には、デモやコロナ禍においても、香港人の訪日意欲や日本の食品に対する購買意欲が衰えることはなく、日本の農林水産省が発表した2020年の農林水産物輸出額において、香港は国・地域別で16年連続で首位を維持している。コロナ禍で、香港でもほかの国・地域と同様に経済活動に影響は出ているが、日常生活に支障はなく、今後、人の往来が再開すれば、香港は日本との経済交流がますます活発になるとともに、大湾区へのゲートウェイとして輝きを取り戻すと思われる。

香港からのインバウンドについては、香港人観光客はリピート客が大半で、レンタカーなどで周遊する人も多いため、福岡や九州の地方都市にとっては特に重要な市場といえる。このため、今後の往来再開を見据えて、香港人観光客の受け入れ体制を整えていくことが重要であると思う。私が出会った福岡好きの香港人に福岡が好き理由を聞くと、福岡で出会った人がとても良い人ばかりだった、といった声が多く返ってきた。私自身も、香港駐在の3年間、多くの香港人に助けていただき、特に、香港の皆さんは子供に対して非常に優しいと感じた。訪日旅行の再開を待ち望む間、香港でも日本の食品などをたくさん購入頂いている香港人の皆さんが、訪日旅行を再開された際には、是非日本で素敵な思い出を作っただけの事を願いつつ、駐在生活最後のレポートとしたい。



## 山形日本香港協会 事務局

### 山形日本香港協会会員紹介 株式会社丸屋本店（前編）

今号と次号の2回に渡りまして、第1回となる山形日本香港協会の会員紹介をさせていただきます。この記事がきっかけとなり、山形日本香港協会の活動や当協会会員の事業に関心を持っていただけましたら誠に幸いです。第1回でご紹介する会員企業は、香港で会社を立ち上げて、白飯や酢飯を寿司バーやスーパーマーケットへ販売する炊飯事業を営んでおられます。最近では、新型コロナウイルス禍の影響下ではありますが、新規の事業として、日本産のお米を使用した「おにぎり専門店」を香港でオープンされたばかりです。香港に進出されたきっかけやその時のエピソードを交えながら、紹介をさせていただきます。

今回ご紹介させていただく会員企業は、株式会社丸屋本店（本社：山形県東根市蟹沢、代表取締役社長：鈴木亮吉氏）です。丸屋本店は、明治24年（1891年）に米穀商として、山形県東根市で、鈴木文助商店丸屋として創業されました。平成11年（1999年）には、株式会社丸屋本店として法人化されました。山形県は、言わずと知れた日本有数の米の産地であり、庄内平野をはじめとする県内各地域の肥沃な土壌からは、『はえぬき』や『つや姫』など数々の山形県産米のブランド米が生まれてきました。最近では、平成30年（2018年）の秋に新たに販売が開始されたブランド米である『雪若丸』については、俳優の田中圭さんが出演されているテレビコマーシャルをご覧になられたことのある方も多いのではないのでしょうか。

丸屋本店は、創業時から地元農家と共に米穀商として歩んでこられてきましたが、平成3年（1991年）には、株式会社ベストフーズを創業、新規の事業として、米飯加工業を開始されました。株式会社ベストフーズでは、主に地元のスーパーマーケット向けに米飯の販売をスタートし、時代に則した業態変化を行ってまいりました。スーパーマーケットへ納品された米飯は、お惣菜コーナーの弁当や寿司に利用され、一般の消費者へと届けられています。

平成24年（2012年）には、日本の素晴らしい食文化を広めるため、香港でBEST FOODS HK LIMITED（五星白飯有限公司）を設立されました。日本におけるベストフーズと同様、毎日現地香港の工場で作られた酢飯や白飯を製造し、寿司バーやスーパーマーケットに向けての供給を通して、日本食の素晴らしさを広められています。昨今の海外における日本食ブームの後押しもあり、BEST FOODS HK LIMITEDは売上を伸ばしています。また、特に香港では調理スペースに限られている場合が多く、出来上がった酢飯や白飯を納品するというビジネスが香港の飲食店の実情にマッチしたといえます。

香港へ進出されたきっかけを鈴木社長へお伺いすると、「2011年の秋に山形県と山形銀行が主催した香港の商談会に参加したことが直接的なきっかけです。2002年から山形の米穀店を（先代の社長から）継いでおりましたが、地域経済の縮小と同業他社との価格競争により、取り巻く環境の悪化が年々進んでいる状況の中で、海外への進出はどうかと、ちょうど考えていたところでした。そして2011年の東日本大震災を経験し、現状に対する危機感から行動に移すことが出来ました。」とのことでした。

2012年の3月に、家族（奥様と小学生のご子息）3人で香港へ移り住まれ、同年6月にBEST FOODS HK LIMITEDを設立されています。2013年3月に火炭の炊飯工場が稼働、2014年5月には、荃湾へ炊飯工場を移設され、香港での事業を拡大されています。現在はマネジメント業に専念されていますが、創業当時は、鈴木社長自らハイエースを運転し、取引先の飲食店へ酢飯や白飯を納品されていたといえます。

鈴木社長へ香港進出当時のエピソードをお伺いすると、「お客もお金も、知り合いも全くいない状況で香港に来ましたので、苦勞と言っても全部なので逆にピンとこないのですが、まずは私の強みである日本で培った米と炊飯の知識を活かしていきたいと考えておりました。まずは会社を設立し、スタッフを雇い、工場設立、商談、工場稼働と香港に来てから最初の売上げが立つまで1年以上かかりましたので、最初の売上げが立った時はうれしかったことは覚えております。」とのことでした。

後編では、昨年オープンされた「おにぎり専門店」や香港人のスタッフとのエピソード、新型コロナウイルス禍での状況、香港への進出を考えている方へのアドバイスをお聞きしていますので、ご紹介させていただきます。



2013年の工場スタッフ



## 北海道日本香港協会 事務局

## 故安齋副会長を偲んで

2005年12月の北海道日本香港協会設立から副会長として当会の活動にご尽力頂きました安齋勲様が去る1月2日に亡くなられました。

安齋副会長は香港島と九龍半島を結ぶ海底自動車トンネルが開通した1972年から1985年までの13年間を香港で過ごされ、香港に関する高い見識をお持ちで、香港での人的繋がりも広く、協会での活動を様々な面で支えて頂きました。

また、香港の繋がりを元に結成された男性コーラスグループ「ダンディー・フォー」でもご活躍され、当会が例年雪まつりのシーズンに開催している「香港のつどい」や、香港で開催される全国連合会の交流会でも素敵な歌声を披露頂き、北海道、日本、香港の交流の懸け橋となって活動頂きました。

安齋副会長は北海道と香港の交流に関して、ビジネス



2018年「香港のつどい」での安齋副会長開催挨拶

だけでなく観光も含めた人的交流の重要性を様々な機会に述べられていました。北海道経済部観光局のデータによると、当協会が設立した2005年度に香港から北海道に観光で訪れる方は年間約8万人でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の渡航制限開始以前の2018年度には約20万人と倍以上になりました。現状コロナ禍で海外との往来は制限されていますが、全面再開となれば安齋副会長の遺志を引き継いで、北海道と香港の交流促進に引き続き取り組んで行きたいと思えます。

最後に、改めて安齋副会長のこれまでの当協会の活動へのご支援に感謝するとともに、在りし日のお姿を偲びつつ、心からご冥福をお祈りいたします。



2014年フェアウェルディナーでのダンディー・フォーのパフォーマンス



フェアウェル・ディナーにてベスト・アテンダンス・アワードの表彰を受ける日本香港協会（左から2人目が安齋氏）

## 理事会・総会開催

3月5日（金）に総会を開催しました。総会では全ての議案が承認され、今年の活動を正式にスタートしています。総会開催に先立ち開催された理事会と併せて、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のためWebでの開催となっています。

総会にて承認された今年度の役員は以下の通りです。

コロナ禍で従来同様の活動が難しい状況にはありますが、引き続き当協会への活動へのご支援のほど宜しくお願い致します。

| 〈役員〉 | 〈氏名〉  | 〈現職〉            |
|------|-------|-----------------|
| 会長   | 石水 創  | 石屋製菓株式会社代表取締役社長 |
| 副会長  | 町田 隆敏 | 札幌市副市長          |
| 副会長  | 川村 哲夫 | 日本清酒株式会社代表取締役社長 |



## 宮城日本香港協会 事務局

### 学生部発足から1年 オンライン交流会好評継続中

2020年3月、本協会にて新たに誕生した学生部は、香港からの留学生を含む県内の香港好きが集まって、新型コロナウイルス感染拡大下の現在はオンライン開催を中心に、毎月第1日曜日の夜に継続して交流活動を行っています。12月には「東日本大震災を知る」をテーマに12名の参加者が集まりました。今回は岩手県陸前高田市で国際交流員として活躍するサラ・チュウさんをお招きし、宮城県や陸前高田市を含む東北の被災地に理解を深めるワークショップを実施しました。香港の参加者の方からも「初めて東北の震災被害を知るきっかけとなった」として、会は好評を博しました。今後も東北の震災経験を、香港の皆さんに知って頂く機会を設けていきたいと思ひます。

#### 岩手県陸前高田市（市街地）



陸前高田市のサラ・チュウさんをお招きした「震災ワークショップ」

今年1月は、「香港の結婚式、クリスマス、お正月」を題材に、香港人学生が日本語で香港文化のプレゼンテーションを行い、日本人参加者が香港の結婚式などの式典文化を学びました。動画で、新郎新婦が新婦の両親にお茶を捧げる「敬茶」を見た日本人参加者の方は、両親に渡されたお茶のことを、ずっとお酒だと思っていたそうです（笑）。これも、お酒が晴れの日の主役の日本、お茶が主役の香港の面白い違いですね。

続いて2月7日（日）には、9名の参加者を得て、旧正月にちなんだ遊びやゲームの紹介を行いました。日本でもお正月に親戚の子どもたちを中心にお年玉をあげる文化がありますが、「利是」とよばれる香港の旧正月のお年玉は、自分の家族に限らず、普段からお世話になっている人同士や、既婚の人から独身の人に幅広く渡されます。会社の上



3月の香港宮城交流会は「大根餅」

司が部下に「利是」をくれることも多いという話を聞いた日本人の参加者の方は、「日本でもこの素晴らしい文化が広まりますように！」と話していました。



ZOOM会議後の記念撮影

3月に開催された交流会では、香港のソウルフードの1つでもある「大根餅」の作り方について、学生部の香港人メンバーの方が撮った料理動画を元に学びました。日本人の参加者の皆さんからも、簡単で美味しい日本の家庭料理のレシピを披露されるなど、イベント開催後も相互交流がSNS上で生まれました。

学生部発足から約1年が経ちましたが、日本からの参加者の皆さんからも「この1年で香港文化の理解が深まった」といった声や、香港の参加者の皆さんからも「コロナで大好きな日本に行けない中、日本人の皆さんと話せる交流会が楽しみになっている」といった声が寄せられました。今後も文化交流を通じて、宮城・日本と香港の絆を深められるよう事務局一同一層努力してまいります。

### 「香港春節ビジネスセミナー2021」に参加

3月5日（金）、香港貿易發展局・日本香港協会主催の「香港春節ビジネスセミナー2021」に、宮城日本香港協会も共催団体として参加しました。この日は首都圏の緊急事態宣言が延長となった時期でしたが、万全の感染対策のもと、大湾区を活用し高品質の製品を届けるリコー様の基調講演や、現在コロナ禍でも業績を著しく伸ばすヤマト運輸様、中華圏での存在感をますます高める龍角散様、香港で破竹の勢いで規模を拡大するシャトレーゼ様のご講演を拝聴し、香港の衰えぬ勢いを改めて肌身に感じた時間となりました。

当日お世話になりました皆様、運営にご尽力された皆様、誠にありがとうございました。



「香港春節ビジネスセミナー2021」の様子



## 沖縄日本香港協会 監事 名城 徹

### 香港市場へのアプローチ

香港は過去15年以上、日本からの食品・農林水産物仕向地として輸出金額No.1の座を維持しており、沖縄の食品輸出関連企業にとっても最大の市場である。それに至ったきっかけは、2000年の沖縄サミット開催に伴い、沖縄のマリンリゾートや農水産物食品がメディアで脚光を浴びるなど、東京ほか主要都市における観光・消費需要の高まりとともに全国的な沖縄ブームが巻き起り、それが東京の流行に敏感な香港市民にも伝播したものである。

2000年以降、沖縄物産展が全国の主要デパートで人気を博すに伴い、県内生産者やメーカーは積極的に販路開拓に取り組むことで実績を積み上げた。また、その勢いは国内市場のみならず海外市場へも広がり、香港で開催されるアジア最大級の展示会Food Expo等の主要見本市・商談会を通して販路開拓に取り組むこととなった。先ず、高級スーパーCity Superでの沖縄物産展の開催及び4店舗に専用棚を確保して認知度を高めるとともに、2009年までに、その他の高級デパートや日系スーパー等へも販路を広げつつ、並行して日本料理店等外食チャネルへの販路拡大に尽力した。この急速な販路開拓に当たっては、香港貿易発展局の輸入卸業者データベースを活用した、2008年と2009年に開催されたビジネスマッチング商談会での成約が大きく貢献している。沖縄産の



香港ワイン&スピリッツにおける沖縄県産業振興公社のブース (右) 2017.11.9

食品で香港に輸出されている主要品目は、紅芋、黒糖関連製品、豚肉加工品、海ブドウ、ゴーヤ、水産品、果物類など多岐にわたっている。また沖縄料理レストラン「えん」では、泡盛も含めた沖縄の物産が多数取り扱われており、香港人の間でも好評を博している。現在は残念ながらコロナの影響で減便となっているが、那覇～香港間では国際直行便が就航しており、香港から沖縄を訪れる香港人旅行者もかなりの数にのぼる。

2008年は、沖縄日本香港協会の創立年でもあり、それを記念して県知事を団長として会員80名がミッションを組んで香港経済視察ツアーを実行した。また、翌2009年には、那覇国際空港のANA航空貨物基地から香港をはじめとして、海外8都市への貨物直行便が始動したことで、県内の生産者やメーカーの輸出意欲が高まった時期でもあった。その後は、香港貿易発展局やジェトロ等の開催する国際食品見本市や商談会へ積極的に参加する企業も増え、輸出実績も拡大して、今では香港の各デパートやスーパーに数多くの定番商品が並んでいる。しかし、新型コロナ肺炎が世界的に蔓延して以降、とりわけこの1年は、従来通りの見本市出展や出張商談実施がかなわず、各社ともリモート商談で工夫しながら反転攻勢の時期をうかがっている状況となっている。よって、コロナワクチンの接種が世界的に行き渡る夏以降には、沖縄～香港間の人々が相互に自由往来することで商談が活発化し、新規販路開拓が実現できる事に期待したい。



沖縄物産商談会 in 香港の集合写真 (右端が筆者) 2009.2.16



香港フードエキスポにおける沖縄県、ヤマト、ANAの共同ブース 2015.8.14



香港ワイン&スピリッツフェアにおける沖縄県酒造組合のブース 2012.11.8

# HIROSHIMA

広島日本香港協会



広島日本香港協会 事務局 木村 将隆

## 「香港食品バイヤーオンライン商談会」の開催

広島日本香港協会では、県内の食品関連企業の香港への販路開拓や、取引量拡大を図るため、2020年11月30日（月）に（公財）ひろしま産業振興機構及び、海外展開を図る県内食品関連企業の団体：Agri & Foods Export Frontier, Hiroshimaとともに、「香港食品バイヤーオンライン商談会」を開催いたしました。

今回の商談会は、より多くのバイヤーとの商談機会を提供するため、広島県の「中国食品・消費財バイヤーオンライン商談会」との共同開催といたしました。企業17社から香港バイヤーへの商談申し込みがあり、書面等による事前商談を行ったのち、当日は6社が香港バイヤーと商談を行いました（全体では16社の県内企業が参加）。当協会としては、初めてのオンラインでの商談会の開催でしたが、幸いにも大きなトラブルもなく、熱心な商談が行われました。

この度、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、オンラインでの商談会を開催することと致しましたが、バイヤーの選定と並行して、オンライン開催に際して想定されるトラブルや、バイヤーとの商談がスムーズで効率的な商談となるように、いくつかの対策を講じました。

### ●バイヤーの選定について

香港のバイヤーは、共催の（公財）ひろしま産業振興機構の国際賛助会員である鴻池運輸(株)が、香港の小売店に販路を持ち、同社が提供している「香港向け食品輸出サポート」\*にて、初めて海外展開に取り組む企業にも、国内での商談サポートができることから選定しました。

### ●オンライン商談会の開催体制と通信トラブルへの対策

商談時の通信トラブルを極力回避するため、参加企業には会場に来ていただき、会場に用意したパソコンで香港とつなぎました。香港での通信トラブルを想定し、現地バイヤーに代わる商談対応者として、香港側バイヤー窓口担当である鴻池運輸(株)にも商談会場に来ていただきました。

### ●事前の商品提案書の提出

効率的かつ成果に結びつく商談を行うため、事前に参加企業から商品提案書及びサンプル（常温の商品のみ）を、鴻池運輸(株)を通じて香港バイヤーに送付し、事前に商品選定をしていただき、成約の可能性がある企業と香港バイヤーの間で実際に商談していただきました。

### ●事前説明会の実施

オンライン商談会が初めてであることを想定し、開催に向けての事前説明会を実施しました。事前説明会では、オンラインでの商談における注意点の他、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための参加企業へのお願い、また、商談を行う上での基礎知識や事前準備、商品説明

のポイント等について説明を行いました。

### ●質問回答集の配布

商談会の開催に際して、各参加企業から寄せられた質問に対する回答を一つにまとめ、質問回答集として参加企業全員に共有いたしました。

開催当日、香港側の通信トラブル（音声が入らない）から、香港バイヤーとの直接の商談はできませんでした。しかし、会場に来ていただいた香港側バイヤー窓口担当の鴻池運輸(株)との感染対策の取られた対面方式による商談を行ったことで、当日の商談をスムーズに行うことが出来ました。

この度のオンライン商談会の開催を通じて、参加企業から、「コロナ禍における海外との取引は難しい状況の中、このような商談の機会に参加できて良かった。」「商談を行う上での課題や、ニーズを把握する事ができた。」など評価を頂きました。

オンラインによる商談会には、海外渡航が不要であり、企業やバイヤーの移動時間や経費を削減できるというメリットもある一方で、参加企業は、商談の場において、試食による商品説明をすることができず、商品の味や特徴など、バイヤーへ伝えにくいというデメリットがありました。

ただ、これからの商談形式の一つとして、今回得た経験をもとに次回の商談会開催の折にはより良いものとして活かしていきたいと思えます。

今後とも、様々な香港への海外展開をサポートできる事業運営を行うため、香港貿易発展局や関係機関と連携し、皆様により良いビジネスサポートができるように努めてまいります。

\* 鴻池運輸(株)が提供する「香港向け食品輸出サポート」…「バイヤー紹介」「商流代行」「貿易実務・語学サポート」「K-クイック」などのサービスがある。バイヤーとの商談後における、契約後の納期調整や、貿易書類・英語対応支援の他、商品はすべて鴻池運輸(株)による国内買取になることから為替のリスクがなく、また、バイヤー宛商品到着後における現地での販売状況の報告など、初めて海外に展開する企業にとって利用しやすいサポートとなっている。



商談の様子



## 新潟日本香港協会の活動について

日本で新型コロナウイルスの感染が拡大し始めてから、早くも1年が経ちましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

新潟日本香港協会は4月が年度始まりのため、2020年度の活動は年度始まりから年度終わりまで、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年間となり、通常総会、各会議、香港フォーラム、春節セミナー等、例年では当たり前に対面で行うことができていた活動のほとんどすべてを、オンラインで実施することとなりました。私は2020年4月から事務局を担当させていただいているのですが、なかなか対面で会員の皆様とお会いする機会を持たず、はがゆさが残る1年でした。

さて、今回の飛龍ですが、2020年度の活動に関しては、お伝えしたようにほぼすべての活動がオンライン開催となってしまい、セミナーやパーティー等の活動報告ができないため、新潟日本香港協会のこれまでの活動実績についてお伝えさせていただければと存じます。

新潟日本香港協会は2013年3月に設立され、今年で設立から8年が経ちました。2013年4月から本格的に活動が始まり、毎年5月の総会、12月の香港フォーラム、2月の春節セミナー・パーティーを軸に様々な活動を行っております。セミナーでは、「香港活用による新潟対外経済拡大へ」(2014年度通常総会)、「香港市場の魅力とゲートウェイ機能」(2018年度通常総会)等、香港におけるビジネスについての内容を中心に会員の皆様へ情報提供を行っております。

また、毎年12月に行われる香港フォーラムでは、協会としてのフォーラム参加だけでなく、協会独自の参加ツアーも開催しております。この参加ツアーでは、香港フォーラム参加の他に、年によって、マカオ観光や広州の中山大学の視察なども盛り込んだものとなっております。



香港ハウスオープニングパーティーの様子



香港ハウス内の様子

す。また、2019年12月に開催された香港フォーラム参加ツアーでは、2019年10月より週2便(期間限定)で就航した新潟-香港のキャセイドラゴンの直行便を利用し、新潟と香港をより近く感じられるツアーとなりました。新型コロナウイルスが収束し、自由な往来が可能になったら、また定期便が就航し、新潟日本香港協会の活動でも積極的に利用できるようになることを切望しております。

このような協会の主だった活動の他にも、新潟日本香港協会では、新潟においての香港にかかわるイベントへの出席や、それに伴うツアーの開催等も行っております。2018年度には、大地の芸術祭「香港ハウス」オープニングパーティー参加ツアーを開催いたしました。大地の芸術祭とは、3年に1度、越後妻有地域(新潟県十日町市・津南町)を「大地の芸術祭の里」の舞台として開催するイベントです。「大地の芸術祭の里」ではアートを媒介として地域に内在するさまざまな価値を掘り起こし、その魅力を高め、世界に発信し、地域再生の道筋を築くことを目指しています。その成果発表の場となるのが、大地の芸術祭で、2018年の大地の芸術祭にて、「香港ハウス」が発表され、香港特別行政区政府の出資により日本との文化交流拠点が生じました。こうした背景により「香港ハウス」のオープニングパーティーが開催され、協会としてもツアーを主催し会員の方々と出席いたしました。総会等で行うセミナーはビジネスの内容が中心となりますが、協会として今後もこういった文化交流の機会を積極的に取り入れていきたいと考えております。

いまだに新型コロナウイルスの収束の見通しがつかない状況ではありますが、2021年度の協会の活動は、新型コロナウイルス感染拡大状況等の情勢を熟慮しながら、対面での活動も行っていければと考えております。引き続き、新潟と香港のビジネス・文化交流の架け橋となるよう、活動の幅を広げていきたいと考えておりますので、2021年度もどうぞよろしくお願いいたします。



## 「まき婆のタレ」の開発秘話

全国の協会の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。コロナ第3波、第4波の影響で倒産数も昨年を上回るペースとなり、経済へのダメージは今後も拡がるのが懸念されています。多くの影響を受けておられる全ての皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、窮地にたたされている中小企業ですが、高知においても例外ではなく、特に観光業や飲食業においては土俵際いっぱい、まさに瀬戸際の状況が続いております。国や県市でも、補助金を活用した様々な救済措置や新たなビジネス展開に多くのメニューが出されているのはご承知の通りですが、申請には多くの時間を要したり、手続きが面倒だったり、そもそも情報が企業に届いていなかったり、情報をキャッチできていないという話も聞かれます。そこで当協会では、高知県商工会議所や地元経営者と連携をはかり「事業再構築補助金」の活用セミナーを企画しております。コロナ禍でなかなか思うような事業ができていませんが、このセミナーは会員以外の皆さんにもご案内をしておりますので、協会の活動としても社会に役立つものと考えております。

またこういった補助金の活用においては、地域によってもメニューが違っており、他地域の情報は有益なものも多くございます。全国の協会でも活用事例がありましたら是非お聞かせいただきたいと思っております。

さて、本号では宣伝を兼ねて森本会長の取り組みを紹介させていただきます。緊急事態宣言を受け、高知でも飲食

店に営業時間短縮が発令されました。当然のことながら、疲弊しているところに追い打ちをかける宣言に多くの飲食店が悲鳴をあげていましたが、森本会長は逆にこれをチャンスと捉え、空いた時間を楽しさに費やし、スタッ



てぬぐい等、オリジナルグッズも人気

フや周囲を巻き込み、新たな商品開発に取り組まれています。添付している写真は、「まき婆」に扮した森本会長です（笑）。商品のリリースまでのスキームが素晴らしく、素人分析ではありますが紹介いたします。

店舗休業中に自宅で手作りした焼肉のタレを近所や友人に、美味しいもの食べて元気になってね！と、自ら友人宅や会社を訪問し、無償で配っていました。そのタレが本当に美味しくて、もらった方はそれをSNSに投稿され、それを見た別の方が興味を持たれてとの連鎖が発生。そして味への追求も忘れることなく、いろんな方から意見を出してもらい、それに応えるべく改良を繰り返し試行錯誤でグレードアップを重ねました。当初はラベルも手作り手書きで、商品名だけの「まき婆のタレ」だったのでしたが、いっそのことコスプレもやっちゃえ！と自虐ネタにも見えるナイスクオリティーで実物の「まき婆」が誕生。そして娘夫妻がデザインを手がけ、現在のこのラベルが完成。

その間も情報発信を続け、タレを売る前に「まき婆」のブランディングをまず強化したのです。いろんな意見を素直に聞く姿勢も相まって、同時にファンの獲得にも成功し、それは当然リピーターにも繋がります。普通なら出来上がった商品をいかに売るかを考えるのですが、この一連の流れで、まき婆のブランディングと顧客の創出を同時に先に仕掛ける手法が秀逸でした。さらにまき婆専用のインスタサイトを立ち上げ、このタレの使い道を投稿すると、ファンもタレの使い方レシピを次々と投稿し、お金のかからない広告宣伝にも繋がっています。

そして、先般開催された「にっぽんの宝物グランプリ JAPAN大会」において、見事特別賞を獲得。今後の販促に期待も寄せられます。すでにブランディングされた「まき婆」は、写真の手ぬぐいのようにグッズ販売にも乗り出しています。コロナを理由に何もしない、何もできないとネガティブに捉える方もいれば、このように空いた時間で新たなチャレンジをすることもできます。これからの「まき婆」の活躍を楽しみにしていきたいですね！



にっぽんの宝物グランプリJAPAN大会で特別賞を受賞した「まきお婆ちゃんのタレ」



# 飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901  
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階  
香港貿易發展局内

NPO 法人日本香港協会 (東京) 電話 (03) 5210-5870  
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階  
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030  
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階  
香港貿易發展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517  
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜斎内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748  
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310  
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2  
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288  
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西  
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758  
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400  
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階  
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001  
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570  
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301  
株式会社オトルトル内



<http://barbier-biz.jp/>

同時通訳 リモート会議 ウェビナー  
通訳機材レンタル LIVE 配信

「伝える」をつなぐ。

MADE TO ORDER WORKS PURSUING SATISFACTION.

Operation & Rental



Arrangement



Sales & Consulting



◇主な実績

世界的なスポーツ大会

政府関連国際会議

大手企業役員会など実績多数

オンライン講座支援・協賛  
バルビエコーポレーション株式会社

<http://barbier-biz.jp/>

お問い合わせ TEL : 03-6773-9235

mail : [all@barbier-biz.jp](mailto:all@barbier-biz.jp)

どうぞお気軽にお問い合わせください